

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年6月30日

【事業年度】 第59期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

【会社名】 ヤマト・インダストリー株式会社

【英訳名】 YAMATO INDUSTRY CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岩本宣頼

【本店の所在の場所】 埼玉県川越市大字古谷上4274番地

【電話番号】 049(235)1234(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部統括 茂木久男

【最寄りの連絡場所】 東京都台東区上野三丁目9番1号

【電話番号】 03(3834)3111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 藤元勝利

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月		平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月
売上高	(千円)	14,724,258	14,037,666	14,240,593	14,585,800	14,827,035
経常利益又は 経常損失()	(千円)	262,133	20,299	52,483	220,689	108,107
当期純利益又は 当期純損失()	(千円)	541,752	33,281	22,255	149,779	82,165
包括利益	(千円)		104,630	22,413	233,628	304,998
純資産額	(千円)	1,569,487	1,464,709	1,487,123	1,720,752	1,985,690
総資産額	(千円)	6,331,772	6,053,714	6,471,974	6,340,501	6,609,803
1株当たり純資産額	(円)	156.11	145.71	147.94	171.18	197.56
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額()	(円)	72.42	3.31	2.21	14.90	8.17
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	24.8	24.2	23.0	27.1	30.0
自己資本利益率	(%)	34.5	2.2	1.5	9.3	4.4
株価収益率	(倍)			31.2	6.3	12.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	299,016	361,591	261,226	224,580	56,195
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	692,282	35,335	64,719	16,383	100,271
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	565,192	280,463	378,604	105,912	139,068
現金及び現金同等物 の期末残高	(千円)	783,707	865,395	904,601	1,035,368	1,011,378
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数)	(名)	1,230 (78)	1,198 (91)	1,149 (104)	1,139 (102)	1,070 (91)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第55期、第56期では1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載をしておりません。第57期、58期、59期については、潜在株式が存在しないため、記載をしておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高 (千円)	8,253,802	9,363,109	9,132,226	8,676,415	7,985,579
経常利益又は 経常損失() (千円)	129,229	73,725	85,653	43,670	131,528
当期純利益又は 当期純損失() (千円)	248,274	39,170	58,910	22,805	120,080
資本金 (千円)	927,623	927,623	927,623	927,623	927,623
発行済株式総数 (千株)	10,171	10,171	10,171	10,171	10,171
純資産額 (千円)	1,791,361	1,753,302	1,811,771	1,840,633	1,720,254
総資産額 (千円)	5,577,741	5,539,460	5,774,136	5,581,136	5,280,738
1株当たり純資産額 (円)	178.18	174.42	180.24	183.11	171.15
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当 額) (円)	()	()	()	()	()
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額() (円)	33.19	3.89	5.86	2.26	11.94
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	32.3	31.7	31.4	33.0	32.6
自己資本利益率 (%)	14.0	2.2	3.3	1.2	6.7
株価収益率 (倍)			11.8	41.4	
配当性向 (%)					
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	143 (37)	136 (55)	128 (72)	123 (67)	117 (60)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第55期、第56期、第59期では1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載をしておりません。第57期、58期については、潜在株式が存在しないため、記載をしておりません。

2 【沿革】

年月	事業内容
昭和30年 8月	工業用プラスチック製品の成形加工販売を目的とした、大和化工材株式会社を東京都台東区御徒町に設立する
昭和36年 6月	東京都台東区御徒町に合成樹脂製品の製造機械販売会社の大和プラスチック機械株式会社(現：株式会社YPK)を三井物産株式会社と合併で設立する
昭和36年 8月	大阪府摂津市に冷蔵庫部品の生産工場、美吉野化工株式会社の設立に伴い出資する
昭和36年 9月	埼玉県浦和市に合成樹脂製品の生産工場、浦和工場を新設する
昭和38年 9月	医療機器類の販売部門を独立させ、大和樹脂株式会社を設立する
昭和40年 4月	東芝、名古屋工場へ洗濯機部品の受注増に伴い、名古屋営業所を新設する
昭和46年 4月	三井物産株式会社より東洋樹脂株式会社(現：川越工場)の経営権を得て、合成樹脂の射出成形部門の生産拠点を確立する。浦和工場は真空成形部門の看板、洗面化粧台他の生産拠点とする
昭和57年 7月	合成樹脂部門の金型設計製作会社、東上精機株式会社を設立する
平成 3年12月	物流機器の生産工場のネスウッド株式会社(100%出資)を設立する
平成 4年10月	商号をヤマト・インダストリー株式会社と改称するとともに、旧社名・大和化工材株式会社を株式会社サワデに継承する
平成 7年 4月	日本証券業協会に店頭登録銘柄として株式を公開する
平成 8年 1月	中国における合成樹脂部門の射出成形拠点として、香港に香港大和工貿有限公司(100%出資)を設立する
平成11年10月	埼玉県坂戸市に東上精機株式会社の合成樹脂製品の千代田工場を購入する
平成12年 4月	浦和工場を閉鎖し埼玉ヤマト株式会社(旧社名ネスウッド株式会社)に生産拠点を統合する
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場する
平成19年 4月	樹脂事業部技術部を東上精機株式会社金型部と統合して技術センターとし、東上精機株式会社をヤマト・テクノセンター株式会社に改称する
平成19年12月	美吉野化工株式会社を株式譲渡により持分法適用会社から除外する
平成20年 5月	株式会社Y P Kを株式譲渡により持分法適用会社から除外する
平成21年 9月	大和樹脂株式会社を株式譲渡により連結子会社から除外する
平成21年10月	永田紙業株式会社並びに明成物流株式会社と資本・業務提携をする
平成22年 2月	埼玉県川越市に本社を移転する
平成22年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場
平成22年10月	大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
平成23年 1月	香港大和工貿有限公司は、独資会社として現地法人大和高精密工業(深圳)有限公司を設立する
平成24年 9月	物流機器事業関連の販売拠点として、中国に亞特貿易(上海)有限公司を設立する
平成25年 7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場

3 【事業の内容】

企業集団の状況

当社の企業集団は、当社・子会社5社で構成され、各種合成樹脂成形品（OA機器部品、家電部品、セールスプロモーション製品、住設機器、自動車用品）及び物流機器（コンピテナー）の製造販売を主な事業内容としております。当社においても、各種合成樹脂成形品に加え、物流機器関連事業を取扱っております。

当企業集団における主要な会社が営む主な事業と当該事業における位置付け及びセグメントとの関連は以下の通りであります。

（合成樹脂成形関連事業）

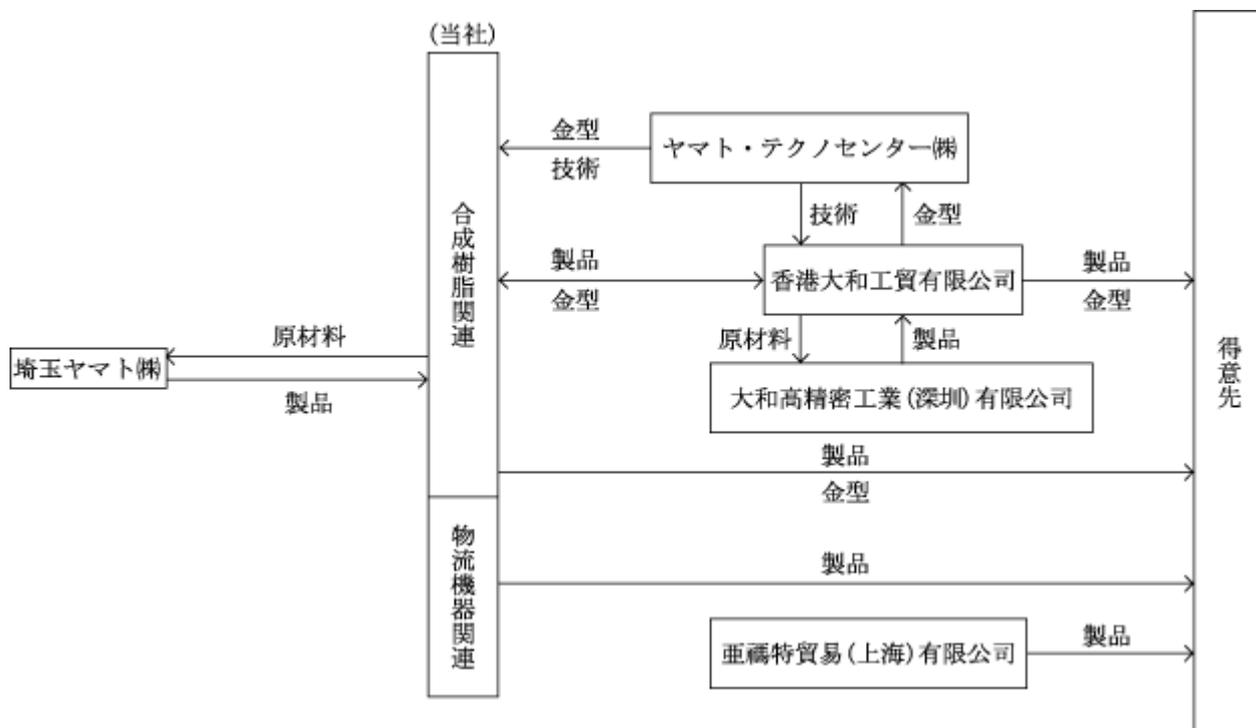
当社が製造するほか、連結子会社のヤマト・テクノセンター株式会社、埼玉ヤマト株式会社に対して金型の製造・合成樹脂成形品の製造等を委託し、当社において販売しております。

香港大和工貿有限公司および大和高精密工業（深圳）有限公司は、中国国内で日系企業向けに輸出用OA機器部品等の成形品ならびに金型の製造販売を行っております。

（物流機器関連事業）

中国企業へ生産委託し当社が日本国内で販売するほか、子会社の亜福特貿易（上海）有限公司が中国国内に販売しております。なお、特殊な物流機器に関しては、一部国内の提携先に生産委託しております。

以上述べた事業の系統図は次の通りであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合(%)	
(連結子会社) 埼玉ヤマト㈱ (注) 3	埼玉県 深谷市	220,000	合成樹脂成形 関連事業	100.0		当社の合成樹脂製品の成形加工 をしています。 役員の兼任 2名 土地・建物・機械装置の賃貸
ヤマト・テクノ センター㈱	埼玉県 川越市	70,000	合成樹脂成形 関連事業	100.0		当社の金型設計製作をしていま す。 役員の兼任 2名 土地・建物・機械装置の賃貸
香港大和工貿有限公司 (注) 3、5	香港 九龍	9,661 (千USドル)	合成樹脂成形 関連事業	100.0		当社が経営指導をしています。 役員の兼任 2名 債務保証、資金援助
大和高精密工業(深圳) 有限公司 (注) 3	中国 深圳	50,000 (千香港ドル)	合成樹脂成形 関連事業	100.0 (100.0)		当社が技術支援をしています。 役員の兼任 3名
亞特貿易(上海) 有限公司	中国 上海	10,000	物流機器 関連事業	100.0		役員の兼任 2名
(その他の関係会社) 永田紙業㈱	埼玉県 深谷市	10,000	機密文書処理		24.9	役員の兼任 2名
明成物流㈱ (注) 6	埼玉県 深谷市	17,000	一般貨物自動 車運送業		14.9	当社の製品の組立作業及び運搬 をしています。 役員の兼任 1名

(注) 1 連結子会社の「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 「議決権の所有(被所有)割合」欄の(内書)は間接所有割合であります。

3 香港大和工貿有限公司、埼玉ヤマト㈱、大和高精密工業(深圳)有限公司は、特定子会社に該当します。

4 上記会社のうちには有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

5 香港大和工貿有限公司については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、所在地別の中国の売上高に占める割合が90%を超えておりますので、主要な損益情報等の記載を省略しております。

6 議決権の被所有割合は、14.9%であります。実質的な影響力を持っているため関係会社としております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (名)
合成樹脂成形関連事業	1,019 (85)
物流機器関連事業	17 (1)
全社共通	34 (5)
合計	1,070 (91)

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
117 (60)	44.2	17.6	4,193

セグメントの名称	従業員数 (名)
合成樹脂成形関連事業	68 (54)
物流機器関連事業	15 (1)
全社共通	34 (5)
合計	117 (60)

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は、結成されておられません但し労使関係は、円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の大規模金融緩和により、円高是正や株価上昇が進み、緩やかな回復基調が続いております。

しかしながら、円安や原油高に伴う輸入原料価格の上昇、消費税増税による個人消費の落ち込みなどの懸念もあり、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、OAメーカーは海外生産への移管が引き続き行われ、住設メーカーにおいては、海外調達等が進み、国内の需要が減少する中、当社グループにおきましては、収益性の向上を目指し高付加価値製品の受注拡大に努めるとともに原価低減及び経費削減に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は148億27百万円（前連結会計年度145億85百万円）、営業利益は1億65百万円（前連結会計年度2億86百万円）、経常利益は1億8百万円（前連結会計年度2億20百万円）、当期純利益は82百万円（前連結会計年度1億49百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

〔合成樹脂成形関連事業〕

当社の主力である、OA機器部品、住設機器の受注が減少する中、海外においては、主力のOA機器部品の受注が順調に推移しました。この結果、売上高は128億2百万円（前連結会計年度122億26百万円）、営業利益は2億9百万円（前連結会計年度2億17百万円）となりました。

〔物流機器関連事業〕

競合他社との価格競争が続く中、売上拡大に努め収益の確保に注力してまいりましたが、円安による原価高により前連結会計年度に比べ減収、減益となりました。この結果、売上高は20億24百万円（前連結会計年度23億59百万円）、営業損失は44百万円（前連結会計年度69百万円の利益）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ23百万円減少し10億11百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュフロー）

営業活動の結果支出した資金は、56百万円（前連結会計年度得られた資金2億24百万円）となりました。これは主に、税金等調整前純利益1億34百万円、減価償却費1億53百万円の計上と、退職給付債務の減少1億46百万円、売上債権、たな卸資産、仕入債務の増減で1億5百万円減少したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュフロー）

投資活動の結果得られた資金は、1億円（前連結会計年度支出した資金16百万円）となりました。これは主に、有形固定資産の取得により1億65百万円支出し、有形固定資産の売却による収入2億63百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュフロー）

財務活動の結果支出した資金は、1億39百万円（前連結会計年度支出した資金1億5百万円）となりました。これは主に、短期および長期借入金の借入、返済によるものです。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
合成樹脂成形関連事業	13,221,453	108.6
物流機器関連事業		
合計	13,221,453	108.6

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 金額は、製造原価で表示しております。
 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
合成樹脂成形関連事業	12,973,871	102.2	1,769,004	110.7
物流機器関連事業	2,015,099	88.1	26,030	73.6
合計	14,988,971	100.0	1,795,034	109.9

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
合成樹脂成形関連事業	12,802,580	104.7
物流機器関連事業	2,024,454	85.8
合計	14,827,035	101.7

- (注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
RICOH COMPONENTS ASIA LIMITED.	1,721,498	11.8	2,123,137	14.3
KYOCERA DOCUMENT TECHNOLOGY COMPANY(HK) LIMITED.	1,661,160	11.4	2,038,156	13.7

- 2 上記の金額には、消費税は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループの経営課題は、当社グループの基本方針に基づき、収益力の回復と利益ある成長を果たすため、個別決算における営業利益・経常利益・当期純利益の黒字確保。(利益率のUP・絶対額の増額)
既存事業の取捨選択。(赤字事業の全廃と黒字事業への集中)
新規事業の創造。
同業・競業他社との事業提携の検討。
情報の共有化と全社的な有効活用。
協力会社との提携強化と管理体制の見直し。

以上の施策の確実な実行と目標達成が当社グループの最重要課題であると認識して進めてまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態及び投資家の判断に重大な影響を及ぼす可能性がある事項には、以下のよう
なものがあります。

当社及び当社の子会社の事業に関わるリスクの主なものを列挙しておりますが、全てのリスクを網羅しているわけではなく、将来において、現在は未知のリスク、あるいは現時点では重要とみなされていないためのリスクの影響を受ける可能性もあります。

なお、記載した内容における将来に関する事項は、当有価証券報告書提出日において、当社グループが判断した
ものです。

海外での事業展開について

当社グループは、海外での経営資源は、収益向上が期待できる中国（香港を含む）に集中しております。当社の100%子会社である香港大和工貿有限公司に専任の取締役を常駐させ、同社の傘下に大和高精密工業（深圳）有限公司の生産会社を有し、また物流機器事業関連の販売会社亜細亞特貿易（上海）有限公司を設立いたしました。一
国集中のリスクは十分に認識しておりますが、現地動向を随時把握し、定期的経営監査を行うなど適切な対応を実施しているところであります。但し、現地の法的規制や慣習等に起因する予測不能な事態が発生することにより、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

主要取引先への依存度に関するリスクについて

当社グループは、主力製品のひとつとしてOA・住設メーカー向けの合成樹脂成形部品及び組立製品の取引を行っており、連結売上高を得意先グループ別に見ると、上位2グループで相当部分を占めております。当社グループに対する取引方針が変更された場合には、経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

原材料価格の変動リスクについて

当社グループが製造する製品の主原料である、石油化学製品、鋼材等の価格が高騰し、それを価格に転嫁できない場合には、経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

固定資産の減損に関するリスクについて

経営環境の変化等により、資産がその収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった場合には、その回収可能性を反映させるように帳簿価額を減額し、その減少額を減損損失とすることとなるため、経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

為替変動リスクについて

当社グループは、中国（香港を含む）に子会社を展開しており売上、費用、資産および負債等の現地通貨建て項目は連結財務諸表作成のため円換算されております。従いまして、換算時の為替レートの変動により経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

以上、列挙したリスク要因には、自社でコントロールできない外部要因もありますが、これらによる経営に与える悪影響の発生可能性も十分認識した上で、その発生を未然防止し、また不幸にもこのリスクが顕在化した場合にはあらゆる手段を尽くして被害を最小限にとどめる方針であります。今後とも想定されるリスク内容の把握を徹底し、十分な管理を遂行してまいります。

5 【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

6 【研究開発活動】

セグメントごとの研究開発活動を示すと次の通りであります。

(合成樹脂成形関連事業)

- ・各種解析を用いたコンカレントエンジニアリング体制にて、引き続き製品設計・開発案件の積極的な取り込みを進めて行くと共に、より進めた形の「コラボレーション」に対応できる様努めてゆく所存です。

(物流機器関連事業)

- ・上半期中に、新型スルーテナーを市場投入予定です。
- ・L R Cにおける細かなユーザーニーズに対応できるよう数種のオプションパーツを検討中です。
- ・規格品の品質向上、コストダウンを目指し部品、構造の見直し等の改善も進めております。

(その他 開発部)

植物工場向け専用機器の開発

- ・植物工場の合理化・省力機器を開発しています。
 - ・現在、野菜の収穫時の作業を効率化する機器を開発し、一部の機種ではすでに植物工場で運用されています。
 - ・また、新たな用途の機器も試作検討中です。
- 環境に優しいスタンド看板の開発
- ・高輝度のLEDを効率よく配置し、省電力でも明るいスタンド看板を開発しました。
 - ・従来のスタンド看板と比較して、明るさは変わらず約50%の省エネになりました。

なお、上記は「研究開発費等に係る会計基準」(企業会計審議会 平成10年3月13日)の「研究及び開発」に該当する活動ではありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて作成しております。この連結財務諸表の作成に際し、当連結会計年度における資産・負債の数値並びに収入・費用の数値に影響を与える見積りを行っております。当社グループは見積りを行うに当たり、貸倒引当金、賞与引当金、退職給付債務、税金関係項目(未払税金、繰延税金資産)等に関する過去の実績や合理的と判断される方法を継続して適用しております。

(2) 当連結会計年度の財政状態及び経営成績の分析

売上高

当社グループの当連結会計年度の売上高は、148億27百万円となりました。この主な要因は、物流機器関連事業において価格競争が厳しく売上高20億24百万円となりましたが、合成樹脂関連事業では、海外において主力のO A機器部品が好調に伸びたため、128億2百万円となりました。

売上総利益

海外においてOA機器部品が好調に伸びたことなどがありましたが、売上原価の増加により売上総利益は、17億19百万円となりました。

販売費及び一般管理費

経費の削減に努めてまいりましたが、海外での受注増に伴う経費増があり、販売費及び一般管理費は15億54百万円となりました。

営業損益

営業利益は、経費削減に取り組み業績の向上に努めてまいりましたが、売上原価の増加により、1億65百万円となりました。

営業外損益（純額）

営業外収益は、受取賃貸料2百万円やその他9百万円により12百万円となり、営業外費用は支払利息40百万円、債権売却損8百万円等により69百万円となりました。

特別損益（純額）

特別利益は、固定資産売却益29百万円となり、特別損失は、固定資産処分損1百万円、事業構造改善費用2百万円により3百万円となりました。

税金等調整前当期純損益

これらの結果、税金等調整前当期純利益は1億34百万円と前連結会計年度に比べ56百万円の減少となりました。

当期純損益

税金等調整前当期純利益の減少により、前連結会計年度比67百万円減少し、82百万円の利益となりました。

資産

資産合計は66億9百万円となり、前連結会計年度末と比べ2億69百万円増加しました。これは主に、受取手形及び売掛金が3億44百万円増加したことによるものです。

負債

負債合計は46億24百万円となり、前連結会計年度末と比べ4百万円増加しました。これは主に、支払手形及び買掛金が1億14百万円増加したことによるものです。

純資産

純資産合計は19億85百万円となり、前連結会計年度末と比べ2億64百万円増加しました。これは主に、為替換算調整勘定が2億23百万円増加、利益剰余金が80百万円増加したことによるものです。

(3) 資本の財源と資金の流動性についての分析

「第2 事業の状況 1 業績等の概要(2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資総額は、1億39百万円であります。
 合成樹脂成形関連事業における設備投資総額は1億9百万円であり、その主なものは、OA機器部品等の成形設備であります。
 物流機器関連事業における設備投資総額は29百万円であります。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
川越工場 (埼玉県川越市)	合成樹脂成形 関連事業	生産工場	114,093	36,416	63,655 (8,358.17)	1,289	993	229,240	37 53

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」には、建設仮勘定は含んでおりません。
 なお、上記金額には消費税等は含まれておりません。
 2 上記中 外書 は、臨時従業員数であります。
 3 上記の他、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は、下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の名称	面積(㎡)	契約期間及び リース期間	賃借料又は リース料(千円)
東京支店事務所 (東京都台東区)	合成樹脂成形 物流機器 関連事業	事務所	460.20	2年	年間賃借料 14,765

(2) 国内子会社

平成26年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
埼玉ヤマト㈱	岡部工場 (埼玉県深谷市)	合成樹脂成形 関連事業	生産 工場	22,275 〔95,025〕	40,286	〔560,929〕 (17,702.97)	2,310	5,837	70,709 〔655,954〕	15 33

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」には、建設仮勘定は含んでおりません。
 なお、上記金額には消費税等は含まれておりません。
 2 上記中〔外書〕は、提出会社からの賃借設備であります。
 3 上記中 外書 は、臨時従業員数であります。

(3) 在外子会社

平成26年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
香港大和工貿 有限公司	事務所 (香港九龍)	合成樹脂成形 関連事業	管理 設備					91	91	13
大和高精密工業 (深圳)有限公司	中国工場 (中国広東省深圳市)	合成樹脂成形 関連事業	生産 設備	24,798	324,552			46,061	395,411	927

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」には、建設仮勘定は含んでおりません。
 なお、上記金額には消費税等は含まれておりません。
 2 上記中 外書 は、臨時従業員数であります。
 3 上記の他、連結会社以外からの主要な賃借設備の内容は、下記のとおりであります。
 香港大和工貿有限公司及び大和高精密工業(深圳)有限公司

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 名称	面積 (㎡)	契約期間及び リース期間	賃借料又は リース料(千円)
中国工場 (中国広東省深圳市)	合成樹脂成形 関連事業	建物及び土地	14,800	5年	年間賃借料 89,185

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

重要な設備の新設等の計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,960,000
計	22,960,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年6月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,171,797	10,171,797	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株であります。
計	10,171,797	10,171,797		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年10月29日	4,430,000	10,171,797	155,050	927,623	155,050	785,132

(注) 第三者割当 発行価格70円 資本組入額35円

割当先 永田紙業(株)、明成物流(株)、美吉野化工(株)、森川正幸、森川幸洋

(6) 【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		4	16	31	11		580	642	90
所有株式数(単元)		552	594	4,481	242		4,289	10,158	13,797
所有株式数の割合(%)		5.44	5.85	44.11	2.38		42.22	100.00	

(注) 自己株式121,051株は、「個人その他」に121単元、「単元未満株式の状況」に51株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
永田紙業株式会社	埼玉県深谷市長在家198	2,500	24.58
明成物流株式会社	埼玉県深谷市長在家198	1,500	14.75
岡三証券株式会社	東京都中央区日本橋1-17-6	340	3.34
日本証券金融株式会社	東京都中央区茅場町1-2-10	267	2.62
岩本宣頼	埼玉県川越市	252	2.49
美吉野化工株式会社	大阪府大阪市中央区松屋町住吉5-14	185	1.82
第一生命保険株式会社 (常任代理人資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	160	1.57
森川正幸	大阪府大阪市中央区	143	1.41
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	138	1.36
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレー M U F G証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4QA, U.K.	135	1.33
計		5,620	55.26

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 121,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,037,000	10,037	
単元未満株式	普通株式 13,797		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	10,171,797		
総株主の議決権		10,037	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式51株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ヤマト・インダストリー(株)	埼玉県川越市大字古谷上 4 2 7 4	121,000		121,000	1.19
計		121,000		121,000	1.19

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号単元未満株式の買取請求による取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	984	91,140
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 (単元未満株式の買増請求による売渡し)				
保有自己株式数	121,051		121,051	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取及び買増請求による売渡しによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対し適切な利益還元を行うことを経営の重要課題の一つとして認識しております。

安定的な経営基盤の確保と株主資本純利益率の向上に努めるとともに、配当につきましても安定的な配当の継続を維持しつつ、さらに業績に応じ積極的に株主に還元していくことを基本方針としております。

剰余金の配当は期末配当の年1回を基本的な方針としております。当社は、会社法第454条第5項の規定により、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

安定的な経営基盤の確保と株主資本純利益率の向上に努めるとともに、配当につきましても株主の皆様へ報いることを基本としておりますが、当社はまだ業績回復途上にあり、過去の赤字決算で失われた自己資本を回復することが急務の課題であるとの認識のもと当面は資本充実・内部留保の確保に努めることが株主の皆様へ報いる最善の策と判断しております。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	115	116	96	106	172
最低(円)	52	35	45	44	64

(注) 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日から平成25年7月15日までは大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	156	158	126	130	124	115
最低(円)	84	107	105	104	86	103

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	品質保証室 担当	岩本 宣頼	昭和20年3月2日	昭和46年5月 昭和52年7月 昭和61年4月 平成8年4月 平成17年6月 平成21年6月 平成22年6月 平成25年5月	当社入社 東洋樹脂(株)出向 当社常務取締役就任 常務取締役技術統括兼経営企画室長就任 当社取締役 (株)YPK専務取締役就任 当社取締役 (株)YPK顧問就任 代表取締役社長兼品質保証室担当就任 代表取締役社長執行役員品質保証室担当就任(現)	(注)2	252
専務取締役	事業本部長	杉浦 大助	昭和25年2月27日	昭和49年4月 平成14年4月 平成16年4月 平成19年4月 平成20年6月 平成22年4月 平成22年6月 平成22年10月 平成24年1月 平成25年5月 平成25年10月	三井物産(株)入社 同社合成樹脂本部 (成型材料事業部)次長就任 (株)ニュー・マテリアル・サービス (現 三井物産フロンティア(株)) 代表取締役社長就任 三井物産フロンティア(株) 代表取締役社長就任 当社専務取締役就任 専務取締役兼事業本部本部長就任 専務取締役兼事業本部本部長兼管理・ 広報担当就任 専務取締役兼事業本部本部長兼樹脂事 業部長兼広報担当就任 専務取締役兼事業本部本部長兼樹脂事 業部長就任 専務取締役専務執行役員事業本部長兼 樹脂事業部事業部長就任 専務取締役専務執行役員兼事業本部長 就任(現)	(注)2	10
常務取締役		永田 耕太郎	昭和39年12月4日	平成1年4月 平成7年7月 平成10年4月 平成22年2月 平成22年6月 平成22年7月 平成24年11月 平成25年5月	永田紙業(株)入社 明成物流(株)設立 同社代表取締役社長就任(現) 永田紙業(株) 取締役営業部長就任 当社常務取締役就任 常務取締役兼経営企画室長就任 物流機器レンタル(株)設立 同社代表取締役社長就任(現) 永田紙業(株)代表取締役社長就任(現) 常務取締役常務執行役員就任(現)	(注)2	13
取締役	樹脂事業海外 統括	重岡 幹生	昭和37年3月31日	昭和61年4月 平成8年4月 平成16年4月 平成17年6月 平成22年4月 平成22年6月 平成22年10月 平成23年1月 平成25年5月	当社入社 香港大和工貿有限公司 代表取締役社長就任 当社樹脂事業部長就任 取締役樹脂事業部長就任 取締役事業本部副本部長兼合成樹脂営 業部・事業統括室・川越工場担当就任 取締役樹脂事業部長就任 取締役樹脂事業海外統括就任 大和高精密工業(深圳)有限公司 董事長就任(現) 取締役上席執行役員樹脂事業海外統括 就任(現)	(注)2	28

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	管理本部長統括兼広報担当	茂木久男	昭和24年3月31日	昭和42年4月 (株)日本相互銀行入行 (現 (株)三井住友銀行) 平成6年8月 (株)さくら銀行上野支店副支店長就任 (現 (株)三井住友銀行) 平成13年4月 (株)オリエンタル・ガード・リサーチ入社 専務取締役就任 平成19年12月 当社入社開発担当部長就任 平成20年4月 商環境事業部長就任 平成21年11月 事業本部開発部長就任 平成22年6月 取締役商環境事業部長就任 平成22年10月 取締役商環境事業部長兼管理本部管掌就任 平成23年6月 取締役商環境事業部長兼管理本部担当就任 平成24年1月 取締役管理本部長兼広報担当就任 平成25年5月 取締役上席執行役員管理本部統括兼広報担当就任(現)	(注) 2	14
取締役		永田博太郎	昭和12年8月24日	昭和34年9月 永田商店創業 昭和48年5月 永田紙業(株)設立 同社代表取締役社長就任 平成22年2月 当社取締役就任(現) 平成24年11月 永田紙業(株)取締役会長就任(現)	(注) 2	
監査役	常勤	鏡味孝房	昭和23年8月29日	昭和47年4月 当社入社 平成6年4月 樹脂事業部川越工場長就任 平成18年4月 経営企画室経営企画部長就任 平成20年4月 サイアムヤマトインダストリー(株)工場長就任 平成21年11月 内部監査室長就任 平成24年6月 当社監査役就任(現)	(注) 3	6
監査役		渡邊正博	昭和20年2月6日	昭和38年4月 東京国税局入局 平成14年7月 信濃中野税務署長就任 平成15年7月 本郷税務署長就任 平成16年8月 税理士事務所開設 平成18年6月 当社監査役就任(現)	(注) 4	
監査役		尾崎貴章	昭和48年3月25日	平成7年4月 アンダーセンコンサルティング入社 (現 アクセンチュア(株)) 平成9年1月 アーサーアンダーセン入社 (現 KPMG税理士法人) 平成15年6月 フェニックス・キャピタル(株)入社 平成17年4月 コンピタント(株)設立 同社代表取締役就任(現) 平成24年6月 当社監査役就任(現)	(注) 3	
計						323

- (注) 1 監査役渡邊正博と監査役尾崎貴章は、社外監査役であります。
- 2 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 取締役永田博太郎は、常務取締役永田耕太郎の父であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

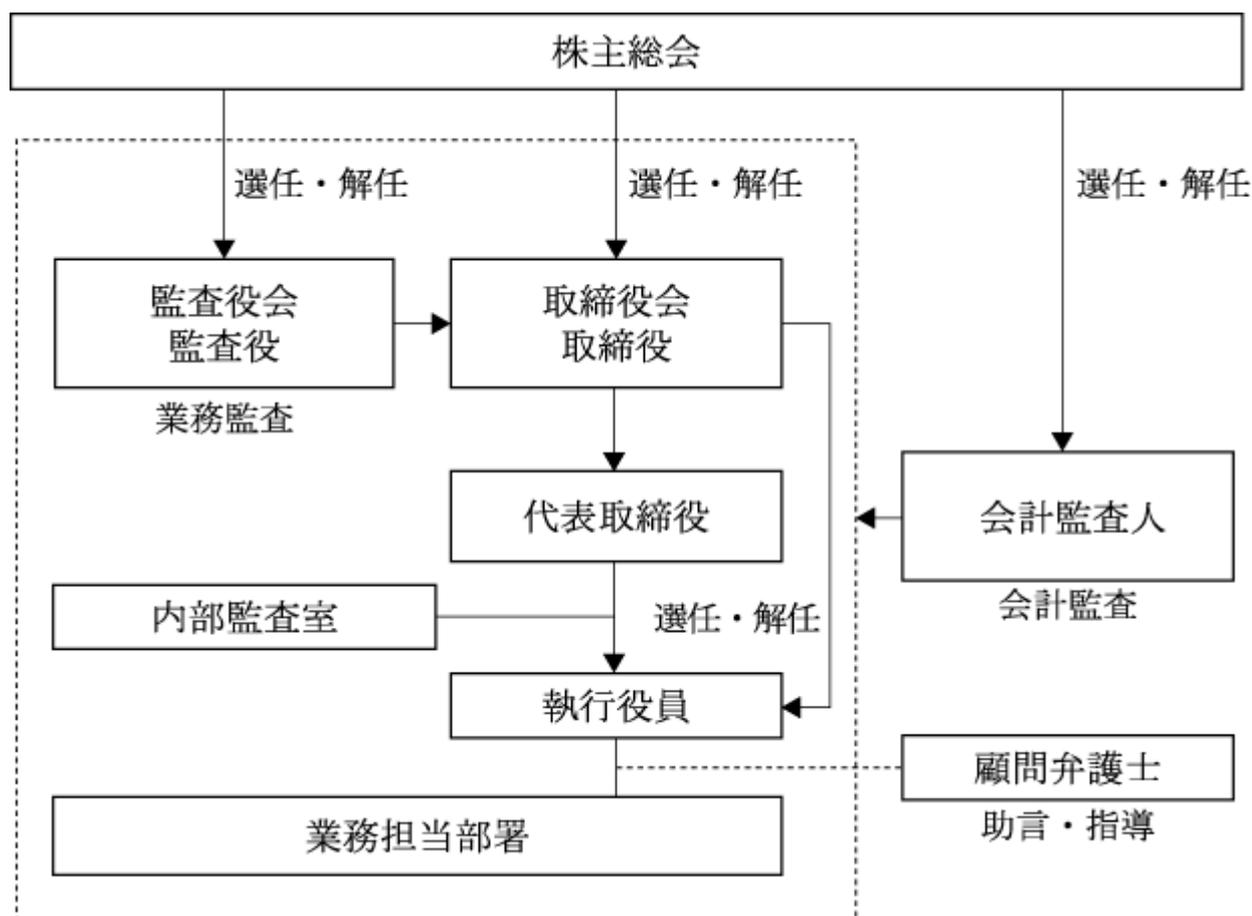
イ 企業統治の体制の概要

当社は、連結会計年度末現在取締役6名(全員社内取締役)、監査役3名(内2名は社外監査役)で構成され、それぞれの役割分担と責任を明確にし、取締役会の意思決定及び業務遂行を迅速に行っております。

取締役会は月1回以上のペースにて定例会議を開催するほか、必要に応じ臨時取締役会等を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を逐次監督しております。

なお、コーポレート・ガバナンスの一層の強化を図るため執行役員制度を導入しております。

当社の経営組織及びコーポレート・ガバナンス体制の概略図は以下のとおりです。



ロ 企業統治の体制を採用する理由

当社は、法令の遵守、企業倫理の徹底が持続的成長を遂げていくための基盤であると考えております。そのため当社は、迅速かつ適切な情報開示に努めるとともに監査・監督機能を強化するための体制・施策の整備に努めるなど、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。

内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

イ 内部統制システムの整備の状況

A 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- (a)役員及び使用人の行動規範として企業倫理規定等の法令・定款遵守体制に関する規定（以下、「法令遵守規定」という。）を整備する。
 - (b)役員及び使用人に対する法令等遵守規定の周知、教育等を行う。
 - (c)内部監査室は、内部監査規程に従って法令及び定款への適合に関して監査を行い、その監査結果を定期的に取り締役会及び監査役会に報告する。
- B 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する事項
- 取締役会の定める文書管理規定等に基づき、取締役及びこれを補助する使用人は、取締役の職務の執行に係る情報を文書又は電磁的記録媒体に記録し、保存する。
- C 損失の危険の管理に関する規定及びその体制
- 経営環境を取り巻くリスク情報を収集・管理するとともに、必要に応じて規定を制定しリスクの低減及び未然防止を図る。
- D 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- (a)取締役会の定める職務権限規定、稟議規定、稟議手続細則等に基づき、職務の執行に関する意思決定過程を明確にし、その効率化を図る。
 - (b)取締役は、各部門が達成すべき目標を設定し、定期的に達成状況を把握し評価する。
 - (c)当社は、平成25年4月22日付にて執行役員制度を導入、業務の執行と監督の分離を実現し、経営の意思決定と取締役及び執行役員の業務執行状況の監督を取締役会が行う。
- E 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- (a)当社グループ会社の取締役及び使用人の行動規範として法令遵守を含め企業の社会的責任を果たすための規定等を整備する。
 - (b)内部監査室は、子会社の管理部門と協議のうえ子会社に対する調査を実施するなどして法令遵守等に関わる経営の状況を把握し、これを取締役会に報告する。
- F 監査役会がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 監査役は、内部監査室に所属する使用人に対して、監査業務に必要な事項の調査・報告等を命じることができるとし、その場合、当該使用人は、当該事項の調査・報告等に関して取締役からの指揮命令を受けないこととし、そのための体制を整備する。
- G 取締役及び使用人が監査役会に報告するための体制その他の監査役会への報告に関する体制
- 取締役会及び使用人が法令・定款違反及び会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を発見した場合に直ちに監査役会に報告する手続等に関する規定を策定するなどして、その体制を整備する。
- H その他監査役会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 監査役がその必要性を認めるときは監査の実施にあたり弁護士、公認会計士等の外部専門家及び内部監査室と連携をすることができる体制を整備する。
- リスク管理体制の整備の状況
- 取締役は、当社の事業活動に関するリスクを把握・評価し取締役会に報告して協議しております。また、当社グループ全般の重要事項に関する問題点の抽出と適切な対策を策定し執行しており、不測の事態が発生した場合には、「経営危機管理規程」に基づき対策本部を設置し事態の把握、損害の拡大防止に迅速に対応する体制を整えております。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、社長直轄の組織として内部監査室(1名)を設置しており、「内部監査規程」に基づく社内の業務監査および会計監査を監査役と連携しながら計画的に実施し、内部牽制を図っており、適正な運営がなされているかを監査しております。

監査役会は、3名の監査役(うち2名が社外監査役)で構成され、各監査役は取締役会に出席し、取締役会および取締役の独断的な経営の弊害を防止し、監査役として機能を発揮させております。また、本社、支店、営業所、工場等の業務及び財産の状況等の調査により、取締役の職務執行状況について厳正な監査を実施しています。

なお、社外監査役渡邊正博は税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。社外監査役尾崎貴章は会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見とともに、経営コンサルティング会社において代表取締役であり、企業経営者としての豊富な経験並びに高い見識を有しております。

会計監査の状況

会計監査については、監査法人不二会計事務所より法定監査を受けており監査役会への定期的な報告が実施されております。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
業務執行社員 栗田尚宜	監査法人不二会計事務所
業務執行社員 川本弘文	監査法人不二会計事務所

会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 4名

社外取締役及び社外監査役との関係

イ 社外取締役及び社外監査役の員数並びに当社との人的・資金的・取引関係その他の利害関係

当社に社外取締役はおりません。当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

社外監査役として、渡邊正博と尾崎貴章の2名を選任しております。

社外監査役2名と当社との間に、それぞれ人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

渡邊正博は、渡邊税理士事務所の代表者であり、当社と同事務所の間には取引関係はありません。尾崎貴章は、コンピタント株式会社の代表取締役であり、当社と同社の間には平成24年6月27日まで業務委託契約による取引関係がありました。

ロ 社外監査役が当社の企業統治において果たす機能及び役割

社外監査役には、豊富な経験と幅広い見識を有し、客観的立場から指摘・意見ができ、様々な専門知識を有する人材の中から複数選任しており、多様な視点から監査を行うことで経営の健全性、適法性を確保しております。

なお、当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第427条第1項の規定に基づき、社外監査役との間で損害賠償責任を、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額とする契約を締結しております。

八 社外取締役及び社外監査役の独立性に関する考え方

社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針はないものの、選任にあたっては、証券取引所の定める独立性に関する判断基準等を参考にしております。

なお、渡邊正博は一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員として届け出ています。

二 社外取締役又は社外監査役の選任状況に関する提出会社の考え方

当社は社外取締役を選任しておりませんが、社外監査役2名を選任しており、外部からの客観的・中立的な経営の監視機能は十分に機能する体制が整っているものと判断しております。

役員報酬の内容

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	
取締役	47,400	47,400			6
監査役 (社外監査役を除く)	4,200	4,200			1
社外監査役	6,000	6,000			2

(注) 期末現在の人員は、取締役6名、監査役3名であります。

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

八 使用兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

使用人兼務役員が存在しないため、記載しておりません。

二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額の決定に関する方針を定めておりませんが、役員報酬の総額は株主総会において決議し、役員個人の報酬等の額は取締役の報酬は取締役会において、監査役の報酬等は監査役会において決定しております。

株主総会決議による限度額は以下の通りであります。

取締役	240,000千円	(使用人兼務取締役の使用人給与相当額は含まない)
監査役	30,000千円	

取締役の定数

当社は取締役を16名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役(取締役であった者を含む。)および監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。

自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、機動的な資本政策の遂行を目的として、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、当該株主総会で議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の3分の2以上をもって行なう旨を定款で定めております。これは、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的の投資株式

A 銘柄数：8

B 貸借対照表計上額の合計：64,753千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)東京都民銀行	5,200	5,876	企業間取引の強化
(株)武蔵野銀行	848	3,131	企業間取引の強化
(株)リコー	3,669	3,684	企業間取引の強化
日本写真印刷(株)	1,022	1,701	企業間取引の強化

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)東京都民銀行	5,200	5,558	企業間取引の強化
(株)武蔵野銀行	848	2,902	企業間取引の強化
(株)リコー	4,286	5,100	企業間取引の強化
日本写真印刷(株)	1,239	1,684	企業間取引の強化

ハ 保有目的が純投資目的の投資株式

該当事項はありません。

ニ 保有目的を変更した投資株式

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	20,000		20,000	
連結子会社				
計	20,000		20,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

会計監査人に対する報酬の額の決定に関する方針は、代表取締役が監査役会の同意を得て定める旨を定款に定めております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、監査法人不二会計事務所により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は、会計基準等の変更等について適時適切に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 1,041,718	1,014,528
受取手形及び売掛金	2, 3 2,363,502	2 2,707,736
商品及び製品	500,653	448,816
仕掛品	123,819	183,638
原材料及び貯蔵品	259,777	278,513
繰延税金資産	12,198	10,628
その他	192,297	262,169
貸倒引当金	674	964
流動資産合計	4,493,293	4,905,067
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,594,827	1,505,814
減価償却累計額	1,292,561	1,227,180
建物及び構築物(純額)	1 302,265	1 278,634
機械装置及び運搬具	2,117,317	2,150,689
減価償却累計額	1,777,593	1,728,073
機械装置及び運搬具(純額)	339,723	422,615
土地	1 894,119	1 660,642
リース資産	58,916	56,734
減価償却累計額	24,123	33,619
リース資産(純額)	34,792	23,115
建設仮勘定	2,420	29,550
その他	525,666	566,707
減価償却累計額	467,060	487,692
その他(純額)	58,606	79,015
有形固定資産合計	1,631,928	1,493,573
無形固定資産		
リース資産	2,017	3,233
その他	23,899	18,904
無形固定資産合計	25,917	22,138
投資その他の資産		
投資有価証券	67,093	64,926
繰延税金資産	9,064	8,067
その他	118,761	121,395
貸倒引当金	5,557	5,364
投資その他の資産合計	189,361	189,024
固定資産合計	1,847,207	1,704,736
資産合計	6,340,501	6,609,803
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 2,112,368	2,226,553
短期借入金	1 721,582	1 594,393
リース債務	13,092	9,608
未払法人税等	22,161	18,130
賞与引当金	24,401	
その他	416,985	403,134
流動負債合計	3,310,592	3,251,820

固定負債				
長期借入金	1	1,103,535	1	1,140,486
リース債務		25,347		18,100
繰延税金負債		28,583		24,840
退職給付引当金		146,789		
退職給付に係る負債				185,465
その他		4,900		3,400
固定負債合計		1,309,155		1,372,292
負債合計		4,619,748		4,624,113
純資産の部				
株主資本				
資本金		927,623		927,623
資本剰余金		785,172		785,172
利益剰余金		45,338		125,443
自己株式		22,562		22,653
株主資本合計		1,735,572		1,815,586
その他の包括利益累計額				
その他有価証券評価差額金		2,218		2,080
繰延ヘッジ損益				68
為替換算調整勘定		17,039		206,001
退職給付に係る調整累計額				37,908
その他の包括利益累計額合計		14,820		170,104
純資産合計		1,720,752		1,985,690
負債純資産合計		6,340,501		6,609,803

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
売上高	14,585,800	14,827,035
売上原価	12,786,157	13,107,358
売上総利益	1,799,642	1,719,677
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	428,804	447,291
役員報酬	68,076	72,524
給料及び賞与	456,472	460,735
賞与引当金繰入額	14,224	
退職給付費用	37,656	49,404
法定福利及び厚生費	78,133	76,047
旅費及び交通費	74,870	75,208
賃借料	77,546	83,771
減価償却費	20,269	24,643
貸倒引当金繰入額	3,006	290
その他	254,037	264,569
販売費及び一般管理費合計	1,513,099	1,554,487
営業利益	286,543	165,189
営業外収益		
受取利息	443	593
受取配当金	233	308
金利スワップ評価益	24	
受取賃貸料	2,345	2,345
保険解約返戻金	5,193	
その他	9,030	9,583
営業外収益合計	17,271	12,830
営業外費用		
支払利息	57,480	40,188
債権売却損	13,730	8,022
為替差損	6,945	10,386
その他	4,969	11,315
営業外費用合計	83,125	69,913
経常利益	220,689	108,107
特別利益		
固定資産売却益	-	1 29,749
ゴルフ会員権売却益	85	-
特別利益合計	85	29,749
特別損失		
固定資産処分損	2 11,439	2 1,557
投資有価証券売却損	12,349	
投資有価証券評価損	4,524	
事業構造改善費用	2,022	2,064
特別損失合計	30,335	3,621
税金等調整前当期純利益	190,439	134,236
法人税、住民税及び事業税	50,536	52,406
法人税等調整額	9,877	335
法人税等合計	40,659	52,071
少数株主損益調整前当期純利益	149,779	82,165
当期純利益	149,779	82,165

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	149,779	82,165
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,056	138
繰延ヘッジ損益	-	68
為替換算調整勘定	77,792	223,040
その他の包括利益合計	1, 2 83,849	1, 2 222,832
包括利益	233,628	304,998
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	233,628	304,998

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	927,623	785,172	104,440	22,562	1,585,793
当期変動額					
当期純利益			149,779		149,779
連結子会社増加による利益剰余金減少高					
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			149,779		149,779
当期末残高	927,623	785,172	45,338	22,562	1,735,572

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	3,837		94,832		98,669	1,487,123
当期変動額						
当期純利益						149,779
連結子会社増加による利益剰余金減少高						
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	6,056		77,792		83,849	83,849
当期変動額合計	6,056		77,792		83,849	233,628
当期末残高	2,218		17,039		14,820	1,720,752

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	927,623	785,172	45,338	22,562	1,735,572
当期変動額					
当期純利益			82,165		82,165
連結子会社増加による利益剰余金減少高			2,060		2,060
自己株式の取得				91	91
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			80,104	91	80,013
当期末残高	927,623	785,172	125,443	22,653	1,815,586

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,218		17,039		14,820	1,720,752
当期変動額						
当期純利益						82,165
連結子会社増加による利益剰余金減少高						2,060
自己株式の取得						91
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	138	68	223,040	37,908	184,924	184,924
当期変動額合計	138	68	223,040	37,908	184,924	264,937
当期末残高	2,080	68	206,001	37,908	170,104	1,985,690

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	190,439	134,236
減価償却費	123,524	153,899
退職給付引当金の増減額(は減少)	9,198	146,789
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	147,556
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,226	97
賞与引当金の増減額(は減少)	24,401	24,401
受取利息及び受取配当金	677	901
支払利息	57,480	40,188
為替差損益(は益)	8,141	5,362
固定資産処分損益(は益)	11,439	1,557
固定資産売却損益(は益)	-	29,749
投資有価証券売却損益(は益)	12,349	
投資有価証券評価損益(は益)	4,524	
保険解約損益(は益)	5,193	
事業構造改善費用	2,022	2,064
売上債権の増減額(は増加)	188,723	255,105
たな卸資産の増減額(は増加)	109,834	62,524
仕入債務の増減額(は減少)	387,219	86,837
未払消費税等の増減額(は減少)	22,183	8,487
その他	18,176	148,665
小計	346,209	37,198
利息及び配当金の受取額	677	901
利息の支払額	57,877	42,750
法人税等の支払額	62,406	77,440
法人税等の還付額	-	27,960
事業構造改善費用の支払額	2,022	2,064
営業活動によるキャッシュ・フロー	224,580	56,195
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	4,200	4,200
定期預金の払戻による収入	7,400	7,400
投資有価証券の取得による支出	1,020	1,076
投資有価証券の売却による収入	41,959	
有形固定資産の取得による支出	98,803	165,644
有形固定資産の売却による収入	-	263,214
投資その他の資産の増減額(は増加)	-	3,020
貸付けによる支出	200	3,000
貸付金の回収による収入	120	1,236
保険積立金の解約による収入	16,375	
その他	21,985	678
投資活動によるキャッシュ・フロー	16,383	100,271
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	58,530	57,840
長期借入金の返済による支出	285,128	564,856
長期借入れによる収入	250,000	382,880
自己株式の取得による支出	-	91
リース債務の返済による支出	12,253	14,841
財務活動によるキャッシュ・フロー	105,912	139,068
現金及び現金同等物に係る換算差額	28,483	58,817
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	130,767	36,174
現金及び現金同等物の期首残高	904,601	1,035,368
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	12,184

現金及び現金同等物の期末残高	1,035,368	1,011,378
----------------	-----------	-----------

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

5社

(2) 連結子会社の名称

ヤマト・テクノセンター(株)

埼玉ヤマト(株)

香港大和工貿有限公司

大和高精密工業(深圳)有限公司

亜(株)特貿易上海有限公司

(3) 連結の範囲の変更に関する事項

亜(株)特貿易上海有限公司は、平成24年9月上海に設立し、当連結会計年度において連結範囲に含めております。

2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち香港大和工貿有限公司、大和高精密工業(深圳)有限公司、亜(株)特貿易上海有限公司の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、平成26年1月1日から連結決算日平成26年3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

3. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ取引

時価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

当社・・・月別移動平均法

連結子会社・・・主として先入先出法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は、定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法によっております。

海外連結子会社は、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10～47年

機械装置及び運搬具 5～10年

その他(什器備品) 2年～13年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率法によっております。貸倒懸念債権及び破産更生債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員への賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の計上方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(5年)による定額法により翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債、収益及び費用は在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ等のヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。また、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用していません。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約、金利スワップ

ヘッジ対象...外貨建債権債務及び外貨建予定取引、借入金

ヘッジ方針

外貨建取引金額の範囲内で為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性を判定しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクが負われない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成の為に重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る負債に計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取り扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が185,465千円計上されるとともに、その他の包括利益累計額が37,908千円減少しております。

なお、1株当たり純資産額は3円77銭減少しております。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号平成24年5月17日)

1. 概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充等について改正されました。

2. 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。

なお、当該会計基準等には経過的な取り扱いが定められているため、過去の期間の連結財務諸表に対しては遡及適用しません。

3. 当該会計基準等の適用による影響

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保債務

担保に供している資産及びこれに対応する債務は以下のとおりであります。

(イ)担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
別段預金	81,423千円	千円
建物	237,956千円	214,393千円
土地	890,561千円	657,084千円
計	1,209,942千円	871,477千円

(ロ)上記に関する債務

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
割引手形	40,000千円	40,000千円
短期借入金	451,105千円	207,008千円
長期借入金	487,714千円	485,546千円
計	978,820千円	732,554千円

2 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形割引高	401,616千円	711,232千円
受取手形裏書譲渡高	12,459千円	12,032千円

3 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高から除かれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形	4,190千円	千円
支払手形	308,746千円	千円

4 コミットメントライン契約

当社では資金調達の安定性を高めるため、取引銀行1行とコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
コミットメントラインの総額		300,000千円
借入実行残高		100,000千円
差引額		200,000千円

(連結損益計算書関係)

1 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
土地	千円	29,749千円

2 固定資産処分損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物	10,818千円	千円
機械装置及び運搬具	331千円	241千円
その他の有形固定資産	289千円	1,315千円
計	11,439千円	1,557千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	2,877千円	302千円
組替調整額	4,524千円	千円
計	7,401千円	302千円
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	千円	106千円
組替調整額	千円	千円
計	千円	106千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	77,792千円	223,040千円
組替調整額	千円	千円
計	77,792千円	223,040千円
税効果調整前合計	85,194千円	222,631千円
税効果額	千円	千円
その他の包括利益合計	85,194千円	222,631千円

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
税効果調整前	7,401千円	302千円
税効果額	1,345千円	163千円
税効果調整後	6,056千円	138千円
繰延ヘッジ損益		
税効果調整前	千円	106千円
税効果額	千円	37千円
税効果調整後	千円	68千円
為替換算調整勘定		
税効果調整前	77,792千円	223,040千円
税効果額	千円	千円
税効果調整後	77,792千円	223,040千円
その他の包括利益合計		
税効果調整前	85,194千円	222,631千円
税効果額	1,345千円	201千円
税効果調整後	83,849千円	222,832千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	10,171,797			10,171,797

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	120,067			120,067

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	10,171,797			10,171,797

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (株)	120,067	984		121,051

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加 984株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金	1,041,718千円	1,014,528千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	6,350千円	3,150千円
現金及び現金同等物	1,035,368千円	1,011,378千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース資産の内容

・有形固定資産

主として、合成樹脂事業における生産設備(機械装置及び運搬具)及び本社におけるサーバー(その他の有形固定資産)であります。

・無形固定資産

主として、合成樹脂事業における生産管理用ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」3(2)に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年以内	5,067千円	13,252千円
1年超	7,601千円	33,684千円
合計	12,669千円	46,937千円

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に合成樹脂の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の債務不履行による信用リスクに晒されておりますが、当社グループでは、債権管理規程に従いリスクを管理しております。

投資有価証券は、主に取引先企業との業務に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や取引先企業の財務状況等を把握することにより、リスクを管理しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、全て1年以内の支払期日であります。また、その一部には、製品等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(為替予約取引)を利用してヘッジしております。

借入金は、運転資金及び設備投資資金の調達を目的としており、このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引及び支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引に限定しております。

デリバティブ取引については、取引権限や限度額等を定めたデリバティブ取引管理規程に基づき、経営会議で基本方針を承認し、これに従い取引実務担当者が取引を行い、経理部において記帳及び契約先と残高照合等を行っております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3. 会計処理基準に関する事項 (6) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

また、営業債務や借入金は流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、資金繰計画の作成・更新を実施してリスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には一定の前提条件等により合理的に算定された価額が含まれているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が変動することがあります。また、注記事項(デリバティブ取引関係)におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,041,718	1,041,718	
(2) 受取手形及び売掛金	2,363,502	2,363,502	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	14,393	14,393	
資産計	3,419,614	3,419,614	
(1) 支払手形及び買掛金	2,112,368	2,112,368	
(2) 短期借入金	721,582	721,582	
(3) 長期借入金	1,103,535	1,091,167	12,368
負債計	3,937,486	3,925,118	12,368
デリバティブ取引 ヘッジ会計が適用されていないもの ヘッジ会計が適用されているもの ()			
デリバティブ取引計			

() デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で債務となる項目については示してあります。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価については、取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、(有価証券関係)注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金ならびに、(2) 短期借入金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものの時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものの時価は元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定してあります。また、金利スワップ特例処理の対象とされた長期借入金については、その金利スワップ前の変動金利として時価を算定しており、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

(デリバティブ取引関係)注記を参照ください。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品
 (単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	52,699

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3)金銭債権の連結決算日後の償還予定額

区分	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	1,038,077			
受取手形及び売掛金	2,363,502			
合計	3,401,580			

(注4)長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	155,821					
長期借入金	565,760	291,340	277,417	232,870	51,838	250,069
合計	721,582	291,340	277,417	232,870	51,838	250,069

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に合成樹脂の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の債務不履行による信用リスクに晒されておりますが、当社グループでは、債権管理規程に従いリスクを管理しております。

投資有価証券は、主に取引先企業との業務に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や取引先企業の財務状況等を把握することにより、リスクを管理しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、全て1年以内の支払期日であります。また、その一部には、製品等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(為替予約取引)を利用してヘッジしております。

借入金、運転資金及び設備投資資金の調達を目的としており、このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引及び支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引に限定しております。

デリバティブ取引については、取引権限や限度額等を定めたデリバティブ取引管理規程に基づき、経営会議で基本方針を承認し、これに従い取引実務担当者が取引を行い、経理部において記帳及び契約先と残高照合等を行っております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3. 会計処理基準に関する事項 (6) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

また、営業債務や借入金は流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、資金繰計画の作成・更新を実施してリスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には一定の前提条件等により合理的に算定された価額が含まれているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が変動することがあります。また、注記事項(デリバティブ取引関係)におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,014,528	1,014,528	
(2) 受取手形及び売掛金	2,707,736	2,707,736	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	15,246	15,246	
資産計	3,737,511	3,737,511	
(1) 支払手形及び買掛金	2,226,553	2,226,553	
(2) 短期借入金	594,393	594,393	
(3) 長期借入金	1,140,486	1,136,133	4,352
負債計	3,961,433	3,957,080	4,352
デリバティブ取引 ヘッジ会計が適用されていないもの ヘッジ会計が適用されているもの ()	110	4,414	4,303
デリバティブ取引計	110	4,414	4,303

() デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で債務となる項目については示してあります。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価については、取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、(有価証券関係)注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金ならびに、(2) 短期借入金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものの時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものの時価は元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定してあります。また、金利スワップ特例処理の対象とされた長期借入金については、その金利スワップ前の変動金利として時価を算定しており、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

(デリバティブ取引関係)注記を参照ください。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品
(単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	49,679

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3)金銭債権の連結決算日後の償還予定額

区分	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	1,010,645			
受取手形及び売掛金	2,707,736			
合計	3,718,381			

(注4)長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	247,560					
長期借入金	346,833	349,245	294,577	113,545	102,507	280,610
合計	594,393	349,245	294,577	113,545	102,507	280,610

(有価証券関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 その他有価証券で時価があるもの

区分	前連結会計年度(平成25年3月31日)		
	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
株式	14,393	10,828	3,564
その他			
小計	14,393	10,828	3,564
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
株式			
その他			
小計			
合計	14,393	10,828	3,564

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	41,959		12,349
その他			
合計	41,959		12,349

3 減損処理を行った有価証券

表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損4,524千円を計上しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 その他有価証券で時価があるもの

区分	当連結会計年度(平成26年3月31日)		
	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
株式	15,246	11,905	3,341
その他			
小計	15,246	11,905	3,341
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
株式			
その他			
小計			
合計	15,246	11,905	3,341

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

3 減損処理を行った有価証券

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価
				うち1年超	
原則的 処理 方法	為替予約取引 買建 米ドル	外貨建仕入 の予定取引			
為替 予約等 の振当 処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	24,696		269
合計			24,696		269

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	320,000	312,000	4,606

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価
				うち1年超	
原則的 処理 方法	為替予約取引 買建 米ドル	外貨建仕入 の予定取引	70,718		110
為替 予約等 の振当 処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	62,267		454
合計			132,985		344

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	342,880	248,188	4,757

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付年金制度及び一時金制度を、連結子会社は一時金制度を採用しております。なお、連結子会社は簡便法により退職給付債務を計上しております。

2 退職給付債務に関する事項

退職給付債務	865,209千円
年金資産	654,557千円
未積立退職給付債務	210,651千円
未認識数理計算上の差異	63,862千円
退職給付引当金	146,789千円

3 退職給付費用に関する事項

勤務費用	40,398千円
利息費用	14,578千円
期待運用収益	4,670千円
数理計算上の差異償却	8,254千円
退職給付費用	58,561千円

簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
割引率	0.8%
期待運用収益率	0.75%
数理計算上の差異の処理年数	5年

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付年金制度及び一時金制度を、連結子会社は一時金制度を採用しております。なお、連結子会社は簡便法により退職給付債務を計上しております。

2 確定給付制度 (簡便法を適用した制度を除く。)

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	831,056千円
勤務費用	40,983千円
利息費用	6,648千円
数理計算上の差異の発生額	13,031千円
退職給付の支払額	69,752千円
その他	156千円
退職給付債務の期末残高	821,811千円

(2) 年金資金の期首残高と期末残高の調整表

年金資金の期首残高	654,557千円
期待運用収益	4,910千円
数理計算上の差異の発生額	14,182千円
事業主からの拠出金	44,371千円
退職給付の支払額	51,658千円
年金資金の期末残高	666,363千円

(3) 退職給付債務及び年金資金の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	818,223千円
年金資金	666,363千円
非積立型制度の退職給付債務	151,860千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,588千円
退職給付に係る負債	155,448千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	155,448千円

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	40,983千円
利息費用	6,648千円
期待運用収益	4,910千円
数理計算上の差異の費用処理額	24,802千円
確定給付制度に係る退職給付費用	67,524千円

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識数理計算上の差異	37,908千円
-------------	----------

(6) 年金資金に関する事項

年金資金の主な内訳

年金資金合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	6%
株式	8%
一般勘定	85%
その他	0%
合計	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資金の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資金の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	0.8%
長期期待運用収益率	0.75%

3 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	34,152千円
退職給付費用	6,466千円
退職給付の支払額	10,602千円
退職給付に係る負債の期末残高	30,017千円

(2) 退職給付債務及び年金資金の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	30,017千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	30,017千円
退職給付に係る負債	30,017千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	30,017千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	6,466千円
----------------	---------

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (平成26年 3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	6,692千円	千円
退職給付引当金	39,850千円	千円
退職給付に係る負債	千円	41,585千円
たな卸資産処分損	3,971千円	17,129千円
投資有価証券評価損	734千円	734千円
会員券評価損	1,497千円	1,497千円
固定資産減損損失	147,344千円	80,718千円
繰越欠損金	627,728千円	698,773千円
その他	53,044千円	51,047千円
繰延税金資産小計	880,862千円	891,485千円
評価性引当額	859,600千円	872,789千円
繰延税金資産合計	21,262千円	18,695千円
繰延税金負債		
固定資産減価償却費認容	927千円	211千円
買換資産圧縮積立金	26,310千円	23,409千円
その他	1,345千円	1,219千円
繰延税金負債合計	28,583千円	24,840千円
繰延税金負債の純額	7,321千円	6,144千円

(注) 繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (平成26年 3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	12,198千円	10,628千円
固定資産 - 繰延税金資産	9,064千円	8,067千円
固定負債 - 繰延税金負債	28,583千円	24,840千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	37.75%	37.75%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.15%	2.99%
住民税均等割等	4.31%	5.48%
評価性引当額の増減	0.54%	29.97%
税務上の繰越欠損金	11.91%	5.67%
在外子会社の税率差異	12.75%	27.65%
連結消去による項目	0.54%	2.93%
税率変更による期末繰延税金負債の減額修正	%	1.17%
その他	0.21%	0.02%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.35%	38.79%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.75%から35.38%になります。

なお、この法定実効税率の変更による当連結会計年度末の一時差異等を基礎として繰延税金資産及び繰延税金負債を再計算した場合の影響は軽微であります。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

重要性が無いため記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

重要性が無いため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

重要性が無いため記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

重要性が無いため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの報告セグメントの区分方法は、製品の種類、性質、製造方法を考慮し、「合成樹脂成形関連事業」、「物流機器関連事業」の2つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「合成樹脂成形関連事業」は、OA機器部品・セールスプロモーション製品・住設機器・自動車用品・情報通信関連用品・家電部品等の製造販売をしております。

「物流機器関連事業」は、物流機器（コンテナ）等の製造販売をしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高及び振替高は取引高の実績及び製品種別の利益率を用いて算定した理論値に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表 計上額
	合成樹脂成形 関連事業	物流機器 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,226,399	2,359,401	14,585,800		14,585,800
セグメント間の内部 売上高又は振替高	41,090	451	41,541	41,541	
計	12,267,489	2,359,852	14,627,342	41,541	14,585,800
セグメント利益	217,388	69,154	286,543		286,543
セグメント資産	4,706,002	858,853	5,564,855	775,645	6,340,501
セグメント負債	2,308,575	529,239	2,837,815	1,781,932	4,619,748
その他の項目					
減価償却費	113,154	10,370	123,524		123,524
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	140,424	13,196	153,620		153,620

(注) 1. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額775,645千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に現金・預金、投資有価証券、会員権等であります。

セグメント負債の調整額1,781,932千円は、主に長期借入金、退職給与引当金であります。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸 表 計上 額
	合成樹脂成 形 関連事 業	物流機 器 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,802,580	2,024,454	14,827,035		14,827,035
セグメント間の内部 売上高又は振替高	44,728	765	45,493	45,493	
計	12,847,308	2,025,219	14,872,529	45,493	14,827,035
セグメント利益 又はセグメント損失()	209,351	44,162	165,189		165,189
セグメント資産	5,368,422	785,233	6,153,655	456,147	6,609,803
セグメント負債	2,453,939	483,470	2,937,409	1,686,703	4,624,113
その他の項目					
減価償却費	130,822	23,077	153,899		153,899
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	109,594	29,575	139,169		139,169

(注) 1. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント資産の調整額456,147千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に現金・預金、投資有価証券、会員権等であります。

セグメント負債の調整額1,686,703千円は、主に長期借入金、退職給付負債であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
8,638,952	5,932,069	14,778	14,585,800

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	中国	合計
1,298,194	333,735	1,631,928

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
RICOH COMPONENTS ASIA LIMITED.	1,721,498	合成樹脂成形関連事業
KYOCERA DOCUMENT TECHNOLOGY COMPANY(HK) LIMITED.	1,661,160	合成樹脂成形関連事業

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	中国	その他	合計
7,962,852	6,851,759	12,423	14,827,035

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	中国	合計
1,061,491	432,081	1,493,573

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
RICOH COMPONENTS ASIA LIMITED.	2,123,137	合成樹脂成形関連事業
KYOCERA DOCUMENT TECHNOLOGY COMPANY(HK) LIMITED.	2,038,156	合成樹脂成形関連事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1)連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

該当事項はありません。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社等の子会社を含む)	永田紙業株式会社 (注3)	埼玉県深谷市	10,000	機密文書処理	(被所有) 直接 24.9 間接 14.9	当社製品の製造 役員の兼任	製品の仕入	5,784		
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社等の子会社を含む)	明成物流株式会社 (注4)	埼玉県深谷市	17,000	一般貨物自動車運送業	(被所有) 直接 14.9 間接 24.9	当社製品の組立作業及び運搬 役員の兼任	製品の仕入 製品の運搬	82,166 34,177	買掛金 裏書手形	7,364 12,459

- (注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 2 取引条件ないし取引条件の決定方針等
 全ての取引については、市場価格を勘案し一般取引条件と同様に決定しております。
 3 当社取締役 永田 博太郎およびその近親者が議決権の過半数を直接所有しております。
 4 当社取締役 永田 耕太郎およびその近親者が議決権の過半数を直接所有しております。

(2)連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1)連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

該当事項はありません。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金(千円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社等の子会社を含む)	明成物流株式会社(注3)	埼玉県深谷市	17,000	一般貨物自動車運送業	(被所有)直接 14.9 間接 24.9	当社製品の組立作業及び運搬 製品の兼任	製品の仕入 製品の運搬	69,888 15,327	買掛金 裏書手形	8,965 12,032

- (注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 2 取引条件ないし取引条件の決定方針等
 全ての取引については、市場価格を勘案し一般取引条件と同様に決定しております。
 3 当社取締役 永田 耕太郎およびその近親者が議決権の過半数を直接所有しております。

(2)連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額 171円 18銭	1株当たり純資産額 197円 56銭
1株当たり当期純利益金額 14円 90銭	1株当たり当期純利益金額 8円 17銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載をしておりません。 また、算定上の基礎となる当連結会計年度における当期純利益は、149,779千円、普通株式に係る当期純利益は、149,779千円、期中平均株式数は、10,051千株であります。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載をしておりません。 また、算定上の基礎となる当連結会計年度における当期純利益は、82,165千円、普通株式に係る当期純利益は、82,165千円、期中平均株式数は、10,050千株であります。

(重要な後発事象)

当社が株式として保有している(株)白元は、平成26年5月29日に東京地方裁判所へ民事再生法の適用申請を行い、受理されました。再生計画の決裁、許可等はまだなされておられません。

なお、同日現在において当社の同社銘柄の株式は、19,590千円であります。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	155,821	247,560	1.16	
1年以内に返済予定の長期借入金	565,760	346,833	2.04	
1年以内に返済予定のリース債務	13,092	9,608		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,103,535	1,140,486	2.50	平成27年～平成39年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	25,347	18,100		平成27年～平成31年
その他有利子負債				
合計	1,863,557	1,762,588		

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
 なお、リース債務の平均利率については、一部の連結子会社においてリース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。
- 2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	349,245	294,577	113,545	102,507
リース債務	7,199	5,926	4,289	685

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

	第1四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	第2四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	第3四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	第59期 連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
売上高 (千円)	3,318,762	6,597,881	10,363,402	14,827,035
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (千円)	38,498	25,574	161,048	134,236
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	24,496	3,065	115,135	82,165
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	2.44	0.30	11.45	8.17

	第1四半期 連結会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	第2四半期 連結会計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)	第3四半期 連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)	第4四半期 連結会計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	2.44	2.74	11.76	3.28

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 696,590	381,911
受取手形	4, 5 158,952	4 422,773
売掛金	2 1,515,741	2 1,433,687
商品及び製品	286,651	224,849
仕掛品	33,476	37,613
原材料及び貯蔵品	46,321	41,366
前払費用	329	3,166
繰延税金資産	11,965	9,358
未収還付法人税等	3,217	
短期貸付金	240	23,059
未収入金	2 156,797	2 151,865
その他	11,723	18,256
貸倒引当金	734	1,069
流動資産合計	2,921,273	2,746,837
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 247,246	1 230,537
構築物	1,313	1,015
機械及び装置	36,242	37,082
車両運搬具	816	1,541
工具、器具及び備品	8,741	23,769
土地	1 894,119	1 660,642
リース資産	30,261	20,804
建設仮勘定	4,320	593
有形固定資産合計	1,223,062	975,988
無形固定資産		
ソフトウェア	3,743	2,488
リース資産	2,017	3,233
電話加入権	5,873	5,873
無形固定資産合計	11,634	11,594
投資その他の資産		
投資有価証券	63,900	64,753
関係会社株式	1,173,269	1,165,203
出資金	3,193	173
従業員に対する長期貸付金	100	
関係会社長期貸付金		132,123
長期前払費用	8,597	7,290
敷金及び保証金	2 150,010	2 150,679
保険積立金	10,000	10,000
会員権	19,089	19,089
その他	2,563	2,370
貸倒引当金	5,557	5,364
投資その他の資産合計	1,425,165	1,546,318
固定資産合計	2,659,863	2,533,901
資産合計	5,581,136	5,280,738
負債の部		
流動負債		

支払手形	2, 5	1,040,801	2	930,723
買掛金		2 609,572	2	761,835
短期借入金				100,000
1年内返済予定の長期借入金	1	565,760	1	338,241
未払金		58,994		76,114
未払費用		97,664		68,715
未払法人税等		14,426		3,264
未払消費税等				5,997
賞与引当金		17,729		
設備関係支払手形		7,273		1,006
その他		56,629		18,355
流動負債合計		2,468,853		2,304,254
固定負債				
長期借入金	1	1,103,535	1	1,093,014
繰延税金負債		27,656		24,628
退職給付引当金		112,636		117,539
その他		27,821		21,047
固定負債合計		1,271,649		1,256,230
負債合計		3,740,503		3,560,484
純資産の部				
株主資本				
資本金		927,623		927,623
資本剰余金				
資本準備金		785,132		785,132
その他資本剰余金		40		40
資本剰余金合計		785,172		785,172
利益剰余金				
利益準備金		124,283		124,283
その他利益剰余金				
買換資産圧縮積立金		47,715		42,896
別途積立金		1,803,505		1,803,505
繰越利益剰余金		1,827,323		1,942,584
利益剰余金合計		148,180		28,100
自己株式		22,562		22,653
株主資本合計		1,838,414		1,718,243
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金		2,218		2,080
繰延ヘッジ損益				68
評価・換算差額等合計		2,218		2,011
純資産合計		1,840,633		1,720,254
負債純資産合計		5,581,136		5,280,738

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
売上高	1 8,676,415	1 7,985,579
売上原価	1 7,671,563	1 7,210,063
売上総利益	1,004,851	775,516
販売費及び一般管理費	2 955,980	2 921,187
営業利益又は営業損失()	48,871	145,671
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,985	1,343
受取手数料	1 32,162	1 49,569
受取賃貸料	1 29,554	1 30,249
保険解約返戻金	5,193	
その他	6,630	6,261
営業外収益合計	75,527	87,424
営業外費用		
支払利息	46,356	36,668
貸与資産減価償却費	12,808	12,534
為替差損	1,794	3,898
手形売却損	4,940	5,359
債権売却損	13,730	8,022
支払リース料	1,069	846
その他	28	5,950
営業外費用合計	80,728	73,281
経常利益又は経常損失()	43,670	131,528
特別利益		
固定資産売却益	-	29,749
ゴルフ会員権売却益	85	-
特別利益合計	85	29,749
特別損失		
固定資産処分損	394	1,321
関係会社株式評価損	-	8,066
投資有価証券売却損	12,349	-
投資有価証券評価損	4,524	-
事業構造改善費用	2,022	2,064
特別損失合計	19,290	11,451
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	24,464	113,230
法人税、住民税及び事業税	10,645	7,143
法人税等調整額	8,985	294
法人税等合計	1,659	6,849
当期純利益又は当期純損失()	22,805	120,080

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	927,623	785,132	40	785,172
当期変動額				
当期純利益				
自己株式の取得				
買換資産圧縮積立金の取崩				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	927,623	785,132	40	785,172

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		買換資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	124,283	52,364	1,803,505	1,854,777	125,375
当期変動額					
当期純利益				22,805	22,805
自己株式の取得					
買換資産圧縮積立金の取崩		4,649		4,649	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		4,649		27,454	22,805
当期末残高	124,283	47,715	1,803,505	1,827,323	148,180

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	22,562	1,815,609	3,837		3,837	1,811,771
当期変動額						
当期純利益		22,805				22,805
自己株式の取得						
買換資産圧縮積立金の取崩						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			6,056		6,056	6,056
当期変動額合計		22,805	6,056		6,056	28,861
当期末残高	22,562	1,838,414	2,218		2,218	1,840,633

当事業年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	927,623	785,132	40	785,172
当期変動額				
当期純損失()				
自己株式の取得				
買換資産圧縮積立金の取崩				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	927,623	785,132	40	785,172

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		買換資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	124,283	47,715	1,803,505	1,827,323	148,180
当期変動額					
当期純損失()				120,080	120,080
自己株式の取得					
買換資産圧縮積立金の取崩		4,818		4,818	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		4,818		115,261	120,080
当期末残高	124,283	42,896	1,803,505	1,942,584	28,100

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	22,562	1,838,414	2,218		2,218	1,840,633
当期変動額						
当期純損失()		120,080				120,080
自己株式の取得	91	91				91
買換資産圧縮積立金の取崩						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			138	68	207	207
当期変動額合計	91	120,171	138	68	207	120,378
当期末残高	22,653	1,718,243	2,080	68	2,011	1,720,254

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(貸借対照表価格は、収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

月別移動平均法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) リース資産以外の固定資産

有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 14年～47年

構築物 10年～15年

機械及び装置 8年～10年

無形固定資産

定額法により償却しております。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

長期前払費用

均等償却をしております。

(2) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率法によっております。貸倒懸念債権及び破産更生債権等については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員への賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における、退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(5年)による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

また、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

なお、以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第75条第2項に定める製造原価明細書については、同ただし書きにより、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産及びこれに対応する債務は、次の通りであります。

(1)担保に供している資産

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
別段預金	81,423千円	千円
建物	237,956千円	214,393千円
土地	890,561千円	657,084千円
合計	1,209,942千円	871,477千円

(2)上記に対する債務

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
割引手形	40,000千円	40,000千円
1年内返済予定の長期借入金	451,105千円	207,008千円
長期借入金	487,714千円	485,546千円
合計	978,820千円	732,554千円

2 関係会社に対する金銭金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期金銭債権	151,148千円	131,055千円
長期金銭債権	77,000千円	77,000千円
短期金銭債務	379,725千円	227,803千円

3 保証債務

関係会社の金融機関よりの借入金およびリース債務に対して次のとおり債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
香港大和工貿有限公司	150,288千円 (12,400千香港ドル)	123,411千円 (9,300千香港ドル)

4 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形割引高	401,616千円	711,232千円
受取手形裏書譲渡高	12,459千円	12,032千円

5 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、前事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、事業年度末残高から除かれております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形	4,190千円	千円
支払手形	308,746千円	千円

6 コミットメントライン契約

当社では資金調達の安定性を高めるため、取引銀行1行とコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
コミットメントラインの総額		300,000千円
借入実行残高		100,000千円
差引額		200,000千円

(損益計算書関係)

1 関係会社に係る注記

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	53,364千円	40,629千円
仕入高	1,546,427千円	1,540,350千円
営業取引以外の取引高	130,894千円	143,376千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
荷造運搬費	141,761千円	126,972千円
給料及び賞与	346,884千円	339,648千円
賞与引当金繰入額	12,659千円	千円
退職給付費用	32,955千円	43,936千円
減価償却費	12,681千円	14,384千円
貸倒引当金繰入額	3,062千円	335千円
おおよその割合		
販売費	55%	56%
一般管理費	45%	44%

(有価証券関係)

前事業年度(平成25年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額1,173,269千円)は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成26年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額1,165,203千円)は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	6,692千円	千円
退職給付引当金	39,850千円	41,585千円
固定資産減損損失	147,344千円	80,718千円
たな卸資産処分損	3,971千円	17,129千円
繰越欠損金	587,222千円	678,712千円
その他	45,978千円	46,795千円
繰延税金資産小計	831,059千円	864,941千円
評価性引当額	819,094千円	855,583千円
繰延税金資産合計	11,965千円	9,358千円
繰延税金負債		
買換資産圧縮積立金	26,310千円	23,409千円
その他	1,345千円	1,219千円
繰延税金負債合計	27,656千円	24,628千円
繰延税金負債の純額	15,690千円	15,270千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	37.75%	%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	11.21%	%
住民税均等割等	30.66%	%
評価性引当額の増減	7.32%	%
税務上の繰越欠損金	61.04%	%
その他	4.48%	%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	6.78%	%

(注) 当事業年度は、税引前当期純損失のため、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.75%から35.38%になります。

なお、この法定実効税率の変更による当事業年度末の一時差異等を基礎として繰延税金資産及び繰延税金負債を再計算した場合の影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表注記事項(重要な後発事象)」に記載のとおりであります。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	247,246	9,614	1,137	25,186	230,537	983,317
	構築物	1,313		0	297	1,015	36,599
	機械及び装置	36,242	14,274	97	13,336	37,082	330,336
	車両運搬具	816	1,423	137	560	1,541	20,382
	工具、器具及 び備品	8,741	33,925	4	18,892	23,769	400,350
	土地	894,119		233,477		660,642	
	リース資産	30,261	638	2,068	8,027	20,804	20,261
	建設仮勘定	4,320	593	4,320		593	
	計	1,223,062	60,469	241,242	66,301	975,988	1,791,247
無形固定資産	ソフトウェア	3,743			1,255	2,488	
	リース資産	2,017	3,276		2,060	3,233	
	電話加入権	5,873				5,873	
	計	11,634	3,276		3,316	11,594	

(注) 1 当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品	33,925千円	(物流機器金型)
機械装置	14,274千円	(川越工場成形機)
建物	2,627千円	(埼玉ヤマト建物)

2 当期減少額の主なものは、次のとおりであります。

土地	233,477千円	(千代田工場売却)
----	-----------	-----------

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	6,291	1,069	927	6,434
賞与引当金	17,729		17,729	

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・ 売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告をすることができない事故その他のやむをえない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載アドレス http://www.yamato-in.co.jp/ir/kessan.html
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、同法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度 第58期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)平成25年6月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書

事業年度 第58期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)平成25年6月28日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第59期第1四半期(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)平成25年8月14日関東財務局長に提出

第59期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)平成25年11月14日関東財務局長に提出

第59期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)平成26年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成25年7月2日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年6月27日

ヤマト・インダストリー株式会社
取締役会 御中

監査法人不二会計事務所

代表社員 業務執行社員	公認会計士	栗田尚宜
業務執行社員	公認会計士	川本弘文

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているヤマト・インダストリー株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ヤマト・インダストリー株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ヤマト・インダストリー株式会社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、ヤマト・インダストリー株式会社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年6月27日

ヤマト・インダストリー株式会社
取締役会 御中

監査法人不二会計事務所

代表社員 業務執行社員	公認会計士	栗田尚宜
業務執行社員	公認会計士	川本弘文

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているヤマト・インダストリー株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第59期事業年度の、財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ヤマト・インダストリー株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。